

第5章 計画の達成状況の評価

1. 計画の管理・推進体制

本計画の推進に当たっては、基本理念として掲げた、盛岡都市圏のつながり、様々な交通モードや交通事業者間のつながり及び多様な関係者とのつながりをいかし、ささえるため、それぞれの連携や協働による体制を構築します。

また、本計画は、盛岡都市圏地域公共交通会議（以下「交通会議」という。）により管理を行うものとします。計画期間である令和12年度（2030年度）までの5年間に於いて毎年度、本計画に示す実施事業の進捗状況の確認や指標に対する評価を行うとともに、進捗状況を踏まえ、必要に応じて施策の見直し、本計画の改訂に関する協議等を行い、計画の着実な推進を図ります。

なお、交通会議は、盛岡都市圏全体としての法定協議会の役割を持つ「全体会」と、各市町や特定の地域及び特定の事業に関する協議を実施する「分科会」等から構成しており、各市町に関連する協議事項や実施事業、本計画の改訂等に伴い、市町別の議論が必要な場合は、必要に応じて各市町の交通会議分科会等を開催し、協議や調整を実施します。

さらに、行政（盛岡都市圏3市町）と交通事業者のほか、学識経験者や国、岩手県等のアドバイザーを構成員とする「（仮称）盛岡都市圏地域公共交通計画ワーキンググループ会議」において、公共交通における情報共有や意見交換を実施します。

その他、本計画の推進に当たり、盛岡都市圏や各市町の庁内、福祉部門や教育部門などの関連する多様な主体と連携体制を構築しながらデータを共有し、課題の把握、事業の着実な実施、効果の把握、モニタリング等を実施していきます。

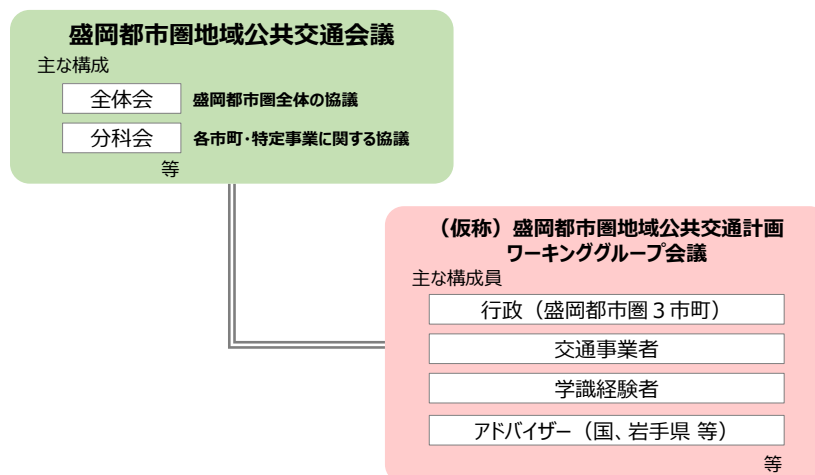


図 5-1 盛岡都市圏地域公共交通会議の体系図

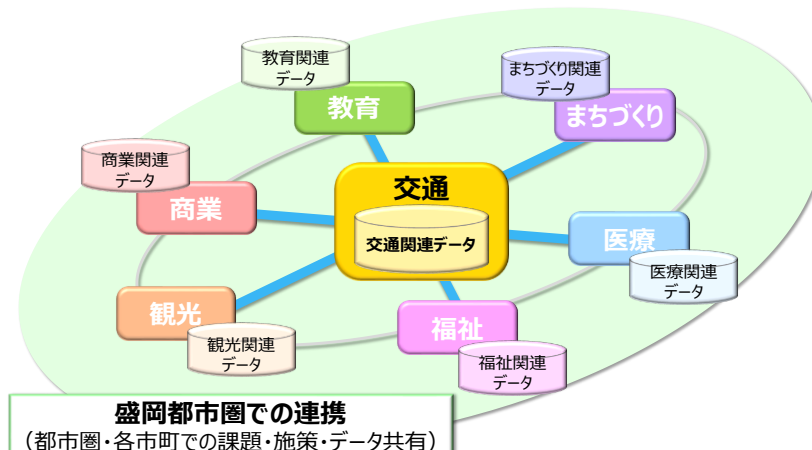


図 5-2 盛岡都市圏・各市町庁内での連携体制のイメージ

2. 計画の管理方法

計画期間中は、毎年度、本計画に定められた施策の実施状況に関する調査、分析や指標に対する評価を行います。具体的には、本計画や各実施事業の立案（Plan）に基づき、本計画に記載する実施主体による実行（Do）、その結果の検証、効果、課題の分析等（Check）を行い、必要に応じて本計画や実施事業の改善、見直し（Action）を行うなど、年度ごとのPDCAサイクルによる着実な推進を図ります。

また、計画期間の最終年度となる令和12年度（2030年度）の事業実績等の評価においては、施策の実施状況だけではなく、その効果や課題などの検証を行うとともに、指標の達成状況の確認と、要因分析も行うなど、計画全体の評価を行うとともに、次期計画の策定に向けて課題等を整理するための各種調査等を実施します。

交通会議では、設定した指標の評価だけでなく、事業の実施状況と得られた効果や、その後に迎えてきた地域公共交通の課題を共有し、実施事業や計画内容の見直しを検討するために、必要なデータをモニタリングしていきます。また、交通事業者や多様な主体と定期的かつ継続的に連携していくためにも、情報やデータの共有を図りながら協議を進めます。

表 5-1 計画期間における管理スケジュール

区分	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度	令和11年度 2029年度	令和12年度 2030年度
事業実施 実施状況の確認 事業内容の改善	事業実施 実施状況の確認 事業内容の改善	反映			
目標達成状況の評価 事業効果の モニタリング	毎年度評価 実施項目の 検証 モニタリング				
情報・データの共有	情報・データ共有				

表 5-2 年度単位の管理スケジュール

区分	N 年度												N+1 年度						
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
会議の開催		全体会の開催							全体会の開催					全体会の開催					
		○ CAP							○ CAP					○ CAP					
	N-1年度の評価・決算報告 新規計画・計画(案)の検討						実施事業の検討・協議 事業評価(案)の協議				N+1年度事業計画 ・予算の協議								
	分科会の開催:随時実施												分科会の開催:随時実施						
交通事業者等 との意見交換	○			○			○			○			○			○			
	交通事業者等との意見交換:(仮称)盛岡都市圏地域公共交通計画ワーキンググループ会議の活用																		
地域公共交通 確保維持事業		○ P				○		○		○ C	○ C				○ P			○	
		N 年度の 計画認定申請 (会議での承認)				計画認定 (N 年度)		N-1年度 補助金 交付申請		N-1年度 一次審査		N-1年度 二次審査			N+1年度の 計画認定申請 (会議での承認)				
	D	地域内交通の運行(N-1年度)					D	地域内交通の運行(N 年度)											
事業実施	D	各種事業の実施												D	各種事業の実施				
		○ D				○ D									○ D			○ D	
		チャグバスの 運行				公共交通 利用促進イベント									チャグバスの 運行			公共交通 利用促進イベント	
評価・検証	○ C		● C			○ A				○ C	○ A		○ C		● C		○ A		
	目標指標 の評価	継続的な モニタリング				データを用いた 検証・改善 計画・施策見直しの検討				対話型評価 (関係者の双方型の コミュニケーション)		目標指標 の評価		継続的な モニタリング		データを用いた 検証・改善 計画・施策見直しの検討			
		公共交通利用者 路線バスの収支率 等								目標指標に 関連するデータ				公共交通利用者 路線バスの収支率 等					
	目標指標に 関連するデータ					実施事業の効果検証に活用する 交通事業者等が保有するデータ				目標指標に 関連するデータ				実施事業の効果検証に活用する 交通事業者等が保有するデータ					

【○:実施、●:実施に向けて調整】

【P:Plan、D:Do、C:Check、A:Action】

3. 財源・人材の確保

本計画の推進及び本計画に定めた施策の実施に当たっては、次に示す3つの手法により、必要となる財源及び人材の確保に努めながら持続可能な地域公共交通を目指します。

■ 交通事業者を支えるための公的財源の確保

盛岡都市圏における公共交通の維持には、交通事業者への補助や地域内交通の運行委託等の直接的な支援に加えて、利用促進策の実施や公共交通に対する意識の醸成等の間接的な支援が必要です。継続的な支援を実施することで交通事業者を支えていくために、国庫補助制度や県補助事業の有効な活用による公的財源の確保、公共交通をみんなで支えるための財源確保等を検討します。

■ 地域公共交通利便増進実施計画の策定による活用可能な公的財源の拡大

本計画において将来ネットワークの位置付けやその必要性を示したこと、盛岡都市圏地域公共交通利便増進実施計画を策定し国の認定を受けることで、これまで十分に活用できていなかった地域公共交通確保維持事業（地域間幹線系統補助／地域内フィーダー系統補助）や社会資本整備総合交付金（地域公共交通再構築事業）等を活用できるようになります。地域公共交通利便増進実施計画を策定することで、新たに活用できる公的財源を確保し、公共交通ネットワークの維持及び施策展開を推進します。

■ 支援事業や産学官等との連携による財源や人材の確保

盛岡都市圏における公共交通の維持に当たり、公的財源だけでは継続的な施策展開が難しい場面も想定されます。また、交通事業者の運転士や事務員のほか、行政職員等の人手不足も深刻化することが懸念されます。そのような懸念事項があるなかでも、上記2つの手法に加えて、共創・Ma a S実証プロジェクト等に代表される支援事業への参画による財源の確保、多様な分野や産学官等との連携による人材の確保に努め、着実な計画の推進や施策展開に取り組めます。

4. S D G s（持続可能な開発目標）と本計画との関係性

S D G s とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、平成 13 年（2001 年）に策定されたミレニアム開発目標「MD G s（Millennium Development Goals）」の後継として平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択され、令和 12 年（2030 年）を達成年限とする世界共通の目標です。貧困、健康、経済、気候変動等のグローバルな課題に対して、発展途上国のみならず、先進国も含めて国際社会全体で実現を目指すものであり、17 のゴール（目標）と 169 のターゲット（具体的な達成基準）から構成されています。

国の S D G s 実施指針では、各地方自治体の各種計画や戦略等の策定に当たり、S D G s の要素を反映することを奨励しているため、17 のゴール（目標）のうち、本計画に関連のある 5 つの目標（3、9、11、12、17）について貢献することを目指します。



図 5-3 S D G s の 17 のゴール（目標）

資料：国際連合広報センターHP

https://www.un.org/ja/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/